

～これからの時代に求められる能力を飛躍的に高めるための教育の革新について～

〔開催状況〕

第1回 10月24日(金) 漆委員、齋藤委員 意見発表、自由討議

委員からの主な発表意見

<漆委員>

- 少子化だからこそ起業教育が重要。品川女子学院では、「デザイン思考」の習得により、最適解を見つける力を育て、企業とコラボレーションした商品開発や、ソーシャルビジネスのケーススタディなどを通して社会貢献意識の醸成を図るとともに、実際の起業体験も行っている。
- 起業教育を通して、貢献意識、使命感、自己肯定感が育まれ、結果として学習力の向上にもつながる。また、起業教育には、チャレンジ精神を育てる失敗、リーダーシップなどを体得するためのもめ事、チームワークやイノベーションを生むための競争が必要。
- 女性が社会で活躍するようになれば、女性に関わる需要が増加し、それに対する新たな起業の可能性も広がることから、女子の起業教育は経済社会を牽引する力になる。

<齋藤委員>

- コンピュータの性能が今後、指数関数的に伸びていく中、これからの教育では、より高次な知性を獲得していくことが必要。日本の子供、若者には創造力(クリエイティビティ)や想像力(イマジネーション)が不足している。イノベーションを起こすアントレプレナーはパッションとビジョンを持っている。
- そのためには「なぜ、そうなるか」(Why)の問題提起、実践(Do)と失敗の経験、ボランティアとホビー、能力別クラス、ディベート、プレゼンテーション、プログラミング教育などを教育に取り入れるべき。
- 具体的な施策として、①実体験と結びつけて論じるエッセイを全高校、大学の入試科目とする、②ゴールだけを設定し、最初に到達した1チームだけが優勝賞金を獲得できる「X-prize方式」コンテストの導入、③様々な社会人学生の学び直しの奨励に取り組むべき。

討議での主な意見

- 「詰め込みは良くない」と言うべきではない。基礎的な知識もない思いつきでは通用しない。中等教育まででしっかり基礎的な力を固めないと大学でクリエイティビティを育めない。
- 伸びる子供とそうでない子の格差はあり、能力別の学習や生徒同士の学び合いが諸外国では行われている。
- 実践知はもともと日本では重視されたものであり、インターンや海外留学は重要。子供に過保護になっている親の意識改革も必要。
- 教育においては「知識」と「生き方」「考え方」を統合していくことが大切であり、その根底に必要なのが、自己肯定感。それをグローバル化の中でどう育むか、根本からの議論が必要。
- 起業教育では教員の資質が重要。これからの教員はファシリテーターとしての力を付けるべきで、校長にもこうした教育をマネジメントする力が必要であるが、現在の大学の教員養成の中では十分教えられていない。教職大学院では学生と現職が交流しながら、こうしたことも学べるようにしていくことが大切。
- 公立学校では「儲け」や「商売」はタブー視してきたが、小学校の段階でも起業教育を取り入れていくべきであり、学習指導要領の中に総合学習の活動の例示として、アントレプレナーシップ教育を示してはどうか。

教育再生実行会議 第1分科会有識者

第1分科会

これからの時代に求められる能力を飛躍的に高めるための教育の革新

漆紫穂子 (品川女子学院校長)

○大竹美喜 (アフラック (アメリカファミリー生命保険会社) 創業者・最高顧問)

川合眞紀 (東京大学教授、理化学研究所理事)

◎佃 和夫 (三菱重工業株式会社相談役)

山内昌之 (東京大学名誉教授、明治大学特任教授)

<分科会有識者>

小林りん (インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢代表理事)

齋藤ウィリアム浩幸 (株式会社インテカー代表取締役社長)

鈴木典比古 (国際教養大学理事長・学長)

堀田龍也 (東北大学教授)

松本 紘 (京都大学前総長)

◎主査

○副主査

第1分科会

これからの時代に求められる能力を飛躍的に高めるための教育の革新について

1. 我が国のイノベーション創出やグローバル化を担う人材の育成

- ・初等中等教育段階から、理数などの分野で稀有な才能の持ち主を、学校内外の教育活動において、いかに見出し、志を高め高度な人材として育成していくか。
- ・新たな分野を拓く人材や革新的な科学技術の事業化を担う人材など、我が国のイノベーションを牽引する高度な人材をいかに育成していくか。
- ・優秀な外国人留学生や海外留学を経験した日本人学生の日本社会での活躍促進など、日本の社会経済の発展に資する政策の在り方はどのようにあるべきか。

2. 新たな価値創造に挑戦する起業家精神の育成

- ・答えのない課題に取り組む力や新たな領域の開拓に挑む力、起業家精神を育成する教育内容や教育活動の充実をいかに図るべきか。
- ・大学等を卒業後、起業しやすい環境づくりをいかに進めるか。産学官が連携して、起業に伴うリスクを恐れず挑戦できる仕組みをいかに構築するか。

3. ICT教育及びその活用、教育方法の転換による教育の質の向上

- ・ICTの適切な利用や情報モラルについての教育、プログラミング教育、情報セキュリティ人材の育成・確保をいかに図っていくか。
- ・ICTの活用など教育方法の転換により、初等中等教育段階における教育の質の向上をどのように図るべきか。その際の教師の役割や指導者の確保、従来の受け身型の授業とは異なる新たな教育方法はどうかあるべきか。
- ・学校内外の学習機会において、ICTを活用したバーチャルな経験と多様な実体験とを組み合わせるなどして、いかに人間としての幅や強さを鍛える教育を実現していくべきか。
- ・高等教育の質の向上や機会の多様化を図る観点から、MOOC（Massive Open Online Course）など、オンラインによる学習コンテンツの提供をはじめ、学生の主体的学びの促進をどのように図っていくか。